

マネジメント

経営理念

- すぐれた熱交換器を提供し、培った技術とサービスで社会の進歩と環境に貢献する
- 会社の永続的発展と顧客、株主、従業員、取引先、地域社会の幸福を追求する

取り組むべき社会課題と機会・リスク

強固な 経営基盤	機会	CSR経営を積極的に展開することで多くのステークホルダーからの信頼を得ることができる。
	リスク	リスクマネジメント、コンプライアンスなどの取組み欠如から信頼が低下する。
車両の 電動化	機会	車両電動化に対応する新たなコンポーネントのビジネス機会の発生
	リスク	電動化に伴う既存内燃機関部品の事業機会の損失
経済の グローバル化	機会	市場拡大によるビジネスチャンス拡大、収益の大幅な拡大に寄与
	リスク	現地の法令、文化、慣習などの理解不足、ルールの未整備による混乱、現地労働者との問題発生などによる損失発生
環境保全や 汚染予防	機会	環境保全活動へ積極参加することへのステークホルダー全体からの支持と信頼獲得できる。
	リスク	公害発生による社会的信用の失墜



T.RAD-11 企業ビジョン

1. 顧客に喜ばれ選ばれ続ける企業
2. ステークホルダーから信頼される企業
3. 人を大切にする企業
4. 安定した収益性実現
5. 3 C+S -Challenge Change Cooperation +Speed

重要課題(マテリアリティ)	
組織統治	コーポレートガバナンス体制の強化 13P
リスク マネジメント 活動の推進	リスクの分析・評価・対応 BCP活動の推進 コンプライアンス活動の推進 14P
人権・ 労働慣行	安全・安心な生産活動 物づくりを通じた人財育成 働き方改革と職場環境改善 海外現地法人の人財育成 17P
顧客満足 (品質)	業界品質No.1 21P
サプライヤーとの 公正な事業慣行	グローバル視点でのサプライチェーン強化 サプライヤーとの法令遵守活動 サプライヤーとの協業・調達保全による 事業継続への貢献 22P
社会貢献・ 地域交流	社会貢献活動 地域社会との交流 24P
環境活動	CO ₂ 削減への対応 環境貢献商品の開発 生物多様性の取組み 廃棄物削減 水資源の保護 27P



T.RAD-11 基本戦略

- 顧客に喜ばれ選ばれ続ける企業
 - ①安心安全で業界No.1品質の製品提供
 - ②熱交換技術進化による顧客・地域・環境に適応した差異化商品提案
 - ③車両電動化 (EV・HV・PHV・FCEV) 対応コンポーネントの積極的提案と拡販
 - ④新事業・新ビジネス創出
 - ⑤非常事態を想定した準備
- ステークホルダーから信頼される企業
 - ①株主への安定配当
 - ②取引先と共に成長
- ステークホルダーとのコミュニケーション活動充実
 - ④地球環境への貢献
 - ⑤コンプライアンスの徹底
- 人を大切にする企業
 - ①安全安心な生産活動 ゼロ災害追求
 - ②物づくりを通じた人財育成
 - ③海外現地法人の現出人財育成
 - ④働き方改革と職場環境改善
- 安定した収益性実現
 - ①生産性向上
 - ②購入部材 コスト競争力強化
- 経費削減
 - ④在庫の見える化と最適化、棚卸誤差削減
 - ⑤ITを活用した業務効率向上
- 3C+S -Challenge Change Cooperation +Speed
 - ①新しいことへチャレンジできる風土
 - ②変化を恐れない活動
 - ③部門を超えたコミュニケーションと協力
 - ④スピードを重視した活動

CSR重要課題の決定プロセスについて



取り組む社会課題が自社の持続的成長にとってどのような機会およびリスクとなるのかを分析しています。

ステップ1で抽出した課題について、経営理念、T.RAD-11企業ビジョン&基本戦略を踏まえ、優先度を検討。また、ステークホルダーの重要度も検討し、優先順位をつけます。

中期経営計画で優先的に対応すべき課題をCSR重要課題として特定しています。

CSR基本理念：持続可能な社会の創造に貢献する

(序文)

株式会社ティラドおよびその子会社は、ティラドの経営理念に基づき、社会・環境の調和のとれた持続可能な発展に率先して貢献します。

また、国内外・国際的な法令並びにそれらの精神を遵守し、誠実な企業活動を行います。

CSR方針

1. お客様

私たちは安全で品質が高くかつ環境に優しい商品をお客様に提供することに努めます。

- 常に、安心・安全・満足度の探求に努めます。
- 事業活動に係るすべての人々の個人情報保護の徹底に努めます。

2. 従業員

私たちは全従業員の幸せを願い、公正な労働条件を提供し、安全かつ健康的な労働環境を維持・向上するよう努めます。

- 仕事・職場、研修等を通じ、「従業員の自己実現」を支えます。
- 均等な雇用機会を提供するとともに、差別を行いません。
- 人権を尊重し、誠実な対話と協議を通じ価値観を共有します。

3. 取引先

私たちはオープンで公正な取引を基本とし、取引先を尊重するとともに強固なパートナーシップの構築に全力で取組み相互発展を図っていきます。

- 環境・品質基準・法令を尊重し、これを取引先にも求めます。

4. 株主

私たちは常に長期的視点に立ち、企業価値の向上を目指し対話による健全な経営に努めます。

- 経営内容のありのままを報告し、経営の透明性に努めます。

5. 社会

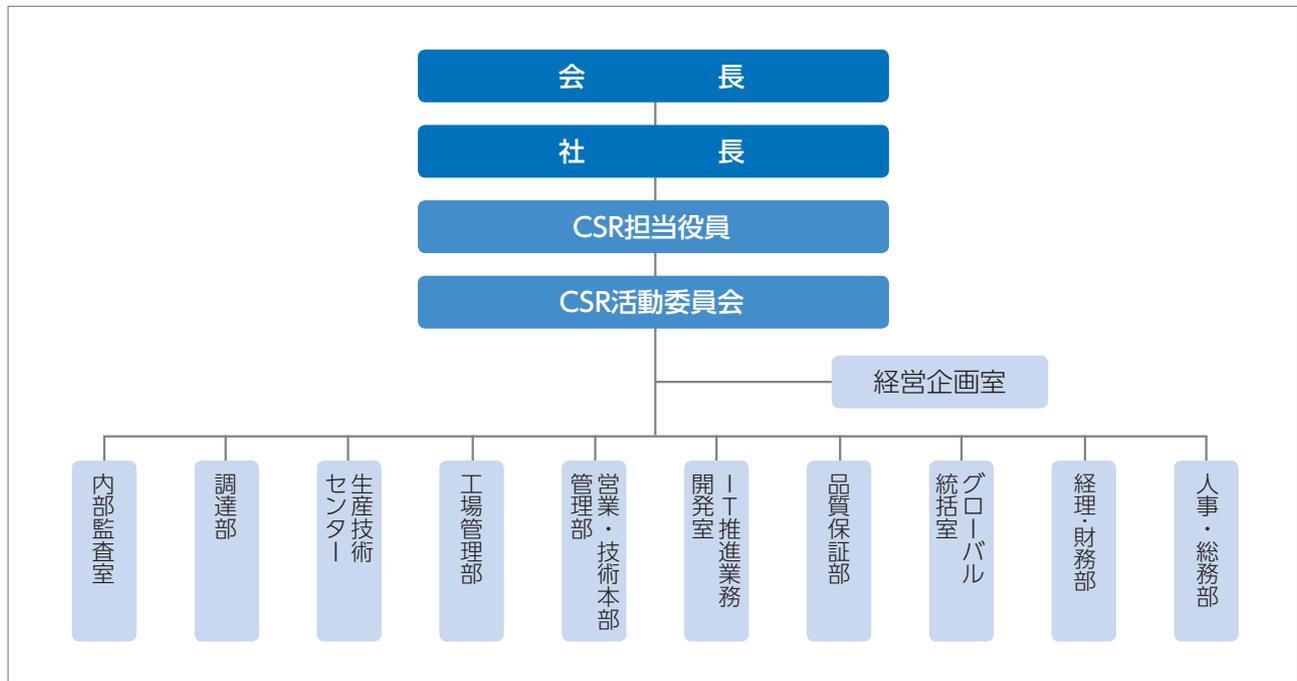
私たちは社会との共生のために、地域社会との対話を大切にします。

- 文化・習慣・歴史および法令を尊重し、人間性尊重の事業活動に努めます。
- 秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力や団体には毅然とした態度で臨みます。
- 環境
商品ならびに、開発・生産・販売などの事業活動全般で、環境に与える負荷の軽減に努めます。
- 社会貢献
独自にまたはパートナーと協力して、コミュニティの成長と豊かな社会づくりに貢献します。

CSR推進体制

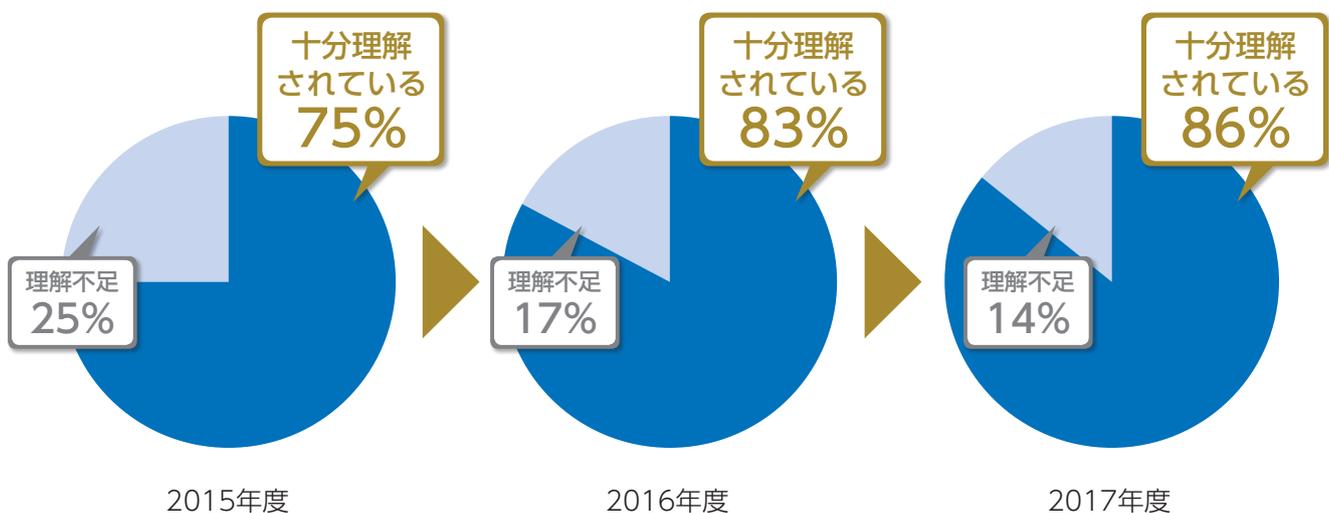
ティラドでは、CSR推進体制を構築しています。毎年3ヶ月に1回（年間4回）各部門のCSR活動委員を招集してCSR活動委員会を開催し、リスクマネジメントを初めとするCSR全体についての問題・課題事項及び各部門におけるコンプライアンス方針の進捗状況を討議し、全社横断的に展開しています。

CSR推進体制



CSR理解度の向上

2017年度も国内・海外計83名を任意抽出して、CSR意識調査を実施しました。CSRの理解度などを調査し、翌年度のCSR活動に活用しています。CSR理解度は年々向上しています。



CSR中期計画 2018年度の目標

ティアラの社会・環境に関する主要課題(リスクや機会等)とそれらに対する取り組み内容です。

課題	T.RAD-11 CSR中期計画 推進(2018-2021年度)	
	活動項目	2018年度目標
リスクマネジメント	コンプライアンスの徹底	法令遵守のための相互遵法監査の充実(追加4法令) 社内不祥事・ハラスメントゼロに向けた教育の徹底
	非常事態を想定した準備	自然災害、火災などの緊急事態に遭遇した場合の事業継続と早期復旧可能な計画推進
お客様	熱交換技術進化による顧客・地域・環境に 適応した差異化商品提案	提案型プレゼンテーション/技術交流会の実施件数 (前年度比+5%)
	車両電動化(EV・HV・PHV・FCEV)対応 コンポーネントの積極的提案と拡販	車両電動化対応商品の引合獲得件数(前年度比+5%)
人権・労働慣行 (従業員)	全社安全衛生活動の充実	海外現法の安全活動現状調査 海外子会社10拠点 リスクアセスメントの継続推進 計画実施率100% 対策実施率80%
	海外現地法人の現地人財育成	マネージャーのスキル把握と育成(OJT) 子会社3社/8社中
	女性の活躍推進	従業員のキャリアアップを促進する仕組みづくり (若手社員フォロー面談の実施、若手社員の定着・育成のための管理者研修実施)
サプライチェーン	取引先と共に成長	仕入先CSRヒアリング 年4回
地域交流	地域社会貢献活動の推進	各地域・事業所単位での社会貢献活動の推進
生物多様性	生物多様性に配慮した活動推進	グリーン購入:各拠点4品目切替(全社24品目切替) 工場の緑化推進 ビオトープ充実化
地球温暖化防止	生産におけるエネルギー使用量の削減	電力換算エネルギー使用量の削減:2013年度比 ▲12.5%
		電力換算エネルギー使用量原単位の削減:2013年度比 ▲12.5%
	物流におけるCO ₂ の削減	エネルギー使用量原単位の削減:2013年度比 ▲5%
	地球温暖化防止に役立つ製品開発	環境貢献製品によるCO ₂ 削減:24,300tCO ₂
EV・HV分野での商品化 4アイテム以上 燃料電池分野での商品化 2アイテム以上		
環境汚染防止	環境負荷物質使用量の削減	PRTR対象物質の排出・移動量原単位の削減
		廃棄物の削減 2017年度比▲1%
		製品中環境負荷物質の削減:負荷物質含有の製品:0%
	大気汚染防止	法の順守(含む水質・土壌汚染防止)
		VOC排出・移動量原単位の削減
環境配慮型設計(DfE)の推進体制の準備	ライフサイクルアセスメント評価の実施と公表	
	環境貢献商品の売上比率:42.5%	
リサイクル 省資源	リサイクル・省資源に役立つ製品開発	製品の軽量・小型化・高性能化
	省資源活動	水使用量原単位の削減 2017年度比▲1%

CSR中期計画 2017年度の目標・実績

ティラドの社会・環境に関する主要課題(リスクや機会等)とそれらに対する取り組み内容です。

課題	T.RAD-10 CSR中期計画 推進(2014~2017年度)	
	活動項目	CSR中期計画2017の推進
事業マネジメント	グローバルなマネジメント体制の構築	グループ会社の環境管理の把握と強化
		ISO関連教育の内製化
	リスク管理の充実	リスクマネジメントの充実
		事業継続マネジメントへの移行推進
		全社安全衛生活動の充実
社員との関わり (人権・労使慣行)	人材の活性化	女性の活躍推進
顧客との関わり	コンプライアンスの遵守徹底	①コンプライアンス問題発生時の撲滅
		②コンプライアンス意識の向上と定着化
サプライヤーとの関わり	仕入先との連携	仕入先との連携強化
地域社会との関わり	情報開示の充実	KPI情報を反映した社会環境報告書 『CSR報告書』を念頭に置いた密度の高い情報の開示
	社会貢献活動の推進	全社体制での貢献活動の推進
生物多様性	生物多様性に配慮した活動推進	生物多様性への全社展開
地球温暖化防止	生産におけるエネルギー使用量の削減	電力換算エネルギー使用量の削減
		電力換算エネルギー使用量原単位の削減
		省エネに貢献する設備開発
	物流におけるCO ₂ の削減	エネルギー使用量原単位の削減
	地球温暖化防止に役立つ製品開発	環境貢献製品によるCO ₂ 削減 EV・HV分野での商品化 4アイテム以上 燃料電池分野での商品化 2アイテム以上
環境汚染防止	環境負荷物質使用量の削減	PRTR対象物質の排出・移動量原単位の削減
		廃棄物の削減
		製品中環境負荷物質の削減:0%
	大気汚染防止	法の順守(含む水質・土壌汚染防止) VOC排出・移動量原単位の削減
環境配慮型設計(DfE)の推進体制の準備	ライフサイクルアセスメント評価の実施と公表 環境貢献商品の売上比率:40%	
リサイクル 省資源	リサイクル・省資源に役立つ製品開発	製品の軽量・小型化(自動車高性能コアシリーズ化)
		新材料の商品化(高強度薄肉材化開発商品化)
	省資源活動	水使用量原単位の削減

2017年度目標	2017年度実績	評価	関連員
全社環境推進会議体の活動計画9割達成	2010年に方針改定済み。2015年に環境ビジョン、中期計画を改定	○	6,7,27,28
CO ₂ と廃棄物の実績管理	CO ₂ と廃棄物の実績管理の継続、特定子会社への環境啓蒙活動実施	○	37-41
現法の ISO14001認証取得フォロー	全海外子会社ISO14001；2015更新済み	○	30
環境負荷物質 (SOC) 管理のグローバル一元化	IMDSなどにより現法8社のSOC含有なしを確認	○	36
IATF16949改訂版審査合格 2017年度中	2018年度6月審査合格	○	30
相互順法監査：労務系 5法令追加実施	労務系監査(新規5法令)実施	○	15
事業継続計画の熟成	全社訓練の実施～PDCAの実践/机上訓練実施	○	14
	各グループの活動推進とフォローの実施	○	
リスクアセスメントの継続推進 実施率100%	リスクアセスメント実施計画 100%実施完了	○	19,20
ヒヤリハット対策実施率80%	ヒヤリハット対策実施率91.9%	○	
女性採用比率の向上	2017年度実績 13.0%	○	17,18
行動計画の検討・届出	2018年4月～開始の行動計画を届出のうえ公表済	○	
コンプライアンス方針やりきり	各部門のコンプライアンス方針展開推進とフォローの実施	○	9
階層別のコンプライアンス教育展開	主任・担当者階層へのコンプライアンス教育実施	○	15
仕入先への労務系法令ヒアリング 目標：8社	ヒアリング8社達成	○	23
社外講評(第三者意見など)からの改善	社会面の活動についてもSDGsとの関連性を明確化	○	7
CSR活動の社内・社外への広報	社内：イントラ掲示板でのCSR情報についてアナウンス実施 社外：外部HPの改善	○	14-16
国内：個別活動の情報の一元化～水平展開 海外：展開情報の収集と国内への情報展開	情報共有化、参考情報として開示 最新情報を全現法で確認	○	24-26
グリーン購入品 全社6品目	全社11品目	○	42-44
2013年度比 ▲10%	+3.01%	×	37
2013年度比 ▲10%	▲7.8%	×	37
省エネ設備の開発	省エネ炉の開発完了	○	37
2012年度比 ▲5%	▲9.9%	○	37
23,600tCO ₂	23,644tCO ₂	○	31
インバーター用熱交換器の年度別CO ₂ 削減貢献量の検証	2018年度：170ton/yearに始まり、2020年度：2,210ton/year	○	31-35
モーター用オイルクーラーの年度別CO ₂ 削減貢献量の検証	2013年度：153ton/yearに始まり、2020年度：82,906ton/year	○	31-35
排熱回収器の年度別CO ₂ 削減貢献量の検証	2015年度：122ton/yearに始まり、2020年度：2,430ton/year	○	31-35
サブラジの年度別CO ₂ 削減貢献量の検証	2018年度から2021年度まで検証中	○	31-35
改良液/液熱交の年度別CO ₂ 削減貢献量の検証	2016年度：20,651ton/year に始まり、2020年度：170,843ton/year	○	31-35
定置式SOFC用熱交換器の年度別CO ₂ 削減貢献量の検証	2016年度：6,884ton/yearに始まり、2020年度：36,922ton/year	○	31-35
2006年度比▲11%	2006年度比 ▲79.5%	○	39
再資源化率98.0%以上維持管理	99.0%	○	38
環境負荷物質含有部品アイテム 0%へ	含有禁止物質 0%	○	36
相互順法監査の継続実施	2017年8月～9月実施。	○	30
2006年度比▲33%	2006年度比 ▲73.1%	○	39
環境貢献指数算出時にLCA計算実施	LCA計算実施	○	31-35
40%以上	41.3%	○	31
環境貢献量の年度別効果検証	2020年度25tCO ₂	○	31-35
2006年度比▲11%	2006年度比 ▲27.7%	○	39

*：GRIガイドライン:Global Reporting Initiativeサステナビリティ・レポート・ガイドライン